

<<平成29年度>>

横浜市立大学大学院

生命医科学研究科

生命医科学専攻

【博士前期課程】

学生募集要項

【博士前期課程 出願期間】

学外推薦 平成28年 6月 7日(火)～ 6月10日(金)

第1期募集 平成28年 7月21日(木)～ 7月25日(月)

第2期募集 平成28年10月31日(月)～11月 4日(金)

【博士後期課程 出願期間】

平成29年 1月12日(木)～ 1月18日(水)

YCU
横浜市立大学

生命医科学研究科 生命医科学専攻

教育理念・目標

生命医科学研究科は生命医科学専攻のみで構成されています。本研究科では、ポストゲノム時代に対応できる研究開発能力を持った人材を育成するために、革新的な計測技術を駆使した生物学の新分野として原子レベルや分子レベルでの生命医科学の確立を目指します。生命原理を物質に基づき原子レベルで解明する構造生物学を基盤として、生体分子→生体超分子複合体→細胞内オルガネラ→細胞→器官→個体からなる生命の階層性を理解する教育を行います。また、細胞極性や細胞ネットワークにおける細胞間コミュニケーション、分化や細胞初期化に関連するエピゲノム、再生医療につながる生殖細胞の独自性、あるいはさらに高次生命現象としての神経科学などを分子レベルや原子レベルで理解し、様々な疾病に対する合理的な創薬などの教育も行います。さらに、国内の独立行政法人（理化学研究所、産業技術総合研究所など）との連携や国外の教育機関とのネットワークにより、グローバルな視点からも教育を行います。

本研究科で得られた知識、経験を基に人類の抱える健康、環境、衛生、医療などの課題に国内外で活躍出来る人材を育成します。そのために必要なベンチャー起業論や知的財産論などの教育も行います。

求める学生像（アドミッションポリシー）

ポストゲノム時代において、生命医科学は多様な方向に急速に発展しています。そして社会は、そのような生命医科学に関する幅広く深い知識と研究経験を持つ若い人材を必要としており、今後そのような要請はより強くなっていくことが予想されます。本研究科では、現代生物学における重要な基盤科学である構造生物学を重要な柱とし、同時に医科学への応用展開力を身につけた人材の育成を重視し、生命医科学に関する基礎的かつ応用的な研究に取り組んでいきます。そのような研究の場で、各々のバックグラウンドを活かしつつ、自らのさらなる可能性を探求する熱意ある学生を求めます。

目次

研究科の概要	1
博士前期課程学生募集要項	4
博士後期課程学生募集要項	19
研究指導教員一覧	31

研究科の概要

研究科の特色

(1) 基礎と応用

タンパク質やDNAなどの生体高分子と、それらが集合して形成される生体超分子複合体の立体構造を原子レベルで解明し、その高次構造に基づいて機能を解析する構造生物学は、近年急速に進展しました。また、細胞生物学においても、細胞内シグナル伝達に加えて、細胞同士のコミュニケーションや秩序形成などの細胞間ネットワークも分子レベルで理解できるようになってきました。さらに生殖細胞の発生や再生医学やiPS細胞などに関連するタンパク質の同定、さらには脳機能の分子メカニズムの研究等医科学研究においても、分子レベルでの理解が急速に進行しています。特に、様々なゲノム配列が解析され、細胞機能や再生医学や脳機能に関連するゲノム解析や、さらにはエピゲノム解析の急速な進展により、遺伝子産物としてのタンパク質の立体構造解析から、疾患に関連する変異がタンパク質中の機能性アミノ酸の空間的な配置の変化により理解できるようになり、合理的な創薬等への応用が大きく期待されています。本研究科では既存の物理学、化学、生物学、遺伝学、情報科学をより一層総合化し、その手法を細胞生物学を含めた先端医科学研究へ応用展開できる教育体制を構築していきます。

(2) 連携大学院

本研究科のメインキャンパスでは、横浜市立大学専任教員の研究室と理化学研究所客員教員の研究室が、理化学研究所横浜キャンパスに隣接した鶴見キャンパスの同一の建物内で教育と研究を行うという、全く新しいタイプの大学院を構築しています。また、生命医科学の出口を見据えた連携をより広げるために産業技術総合研究所の生命科学関連研究者も客員教員として参加しています。

(3) 技術開発

本研究科では生命医科学研究の基盤となるイメージング技術、新規生体計測技術、機能性タンパク質同定チップ、生体超分子複合体の高分解能・超微量分析技術、合理的創薬を目指した網羅的スクリーニング技術、生体機能調節分子の設計技術、効率的なゲノム工学を行うための次世代ゲノム・遺伝子設計技術、細胞ゲノム工学技術、生体超分子大量発現技術、エピゲノム制御技術など産業社会に大きく貢献できる様々な新技術の開発も推進していきます。さらに、教育における産学連携推進の観点から、客員部門として理化学研究所や産業技術総合研究所のみならず、民間会社の研究員、弁理士等を客員教員として招聘し、ベンチャー起業論やマネジメント教育を含めた戦略的な教育研究を遂行しています。

教育の特色

原子レベルでの生物学の理解を目指す構造生物学と細胞生物学を融合した、分子レベルでの理解とこれらの基盤に基づいた高次生命機能の理解における技術開発能力をさらに有効に活かした教育を行います。

- ア 構造生物学：原子分解能での生体超分子の構造に基づいてその機能を理解し、創薬などへの応用を目指す構造生物学を中心とする物理学・化学・生物学・情報科学などを含んだ学際的教育を行うとともに、生命医科学研究を遂行するための基盤となる新しい技術開発に向けた教育も行います。
- イ 構造細胞生物医学：分子レベルで細胞機能を理解し、細胞内・細胞間コミュニケーションにおける生体超分子複合体のネットワークの教育を行うとともに構造生物学と連携して技術開発に向けた教育も行います。
- ウ 高次生命機能医科学：免疫や生殖医学や高次神経現象などを含めた高次生命機能の基盤を生体超分子複合体のネットワークに基づいた細胞生物学で理解できる教育を行います。
- エ 理化学研究所等との連携大学院：理化学研究所や産業技術総合研究所との連携をさらに充実させ、客員教員を中心として、そこで行われている国家プロジェクトなどの最先端科学の現場に触れさせることで、優れた人材を育成します。
- オ 産学連携教育：本学で行われている産学連携をさらに拡充して、そこに参加している企業研究者などにより、ベンチャー起業論、知的財産論などの教育をすることで、社会で役立つ人材を育成します。

カリキュラムの構成

本研究科では、物理や化学、生物や工学、薬学や農学などを学んだ学生を幅広く受け入れ、自己に適した研究分野を見つけ修了できるカリキュラムを構成しています。

特に学位論文完成に向けた特別研究（研究指導）や演習、必修科目（講義）、多様な選択科目（講義）を組み合わせたカリキュラムを構成し、戦略的な基礎研究を効果的に推進できる特色ある教育体制をとっています。

（１）博士前期課程

【修了要件】

特別研究 8 単位、演習科目 4 単位、必修科目 8 単位、選択科目 10 単位、合計 30 単位の取得および修士論文の提出とします。修了者には修士（理学）の学位を授与します。

特別研究：修士論文完成の指導（研究指導）を行います。学生は自らの研究テーマに沿って指導教員を選択し、全期間を通じて研究指導を受けるとともに、副指導教員からも研究指導を受けることにより、多様な視点からの研究活動を進めます。

必修科目：「生命医科学総論」「生命医科学リテラシー」「生命医科学序説」「神経科学序説」の講義が必修です。「生命医科学演習」では、英文科学雑誌のレビューや輪読などにより、プレゼンテーションや外国語能力を養うとともに、国際的な観点から研究の動向や進展を把握し、研究者としての視野を広めます。

選択科目：各研究分野に関する概説や序説を選択必修として履修します。また、各研究分野の特論を選択科目とします。

(2) 博士後期課程

【修了要件】

特別研究科目 8 単位、演習科目 6 単位、講究科目 6 単位、合計 20 単位の取得および博士論文の提出とします。修了者には博士（理学）の学位を授与します。

特別研究：戦略的な基礎研究を体得させるための教育・研究指導を行うとともに、博士論文完成のための指導を行い、独立した研究者の養成を目指します。論文審査に当たっては、レフリー付きの学術雑誌に発表された原著論文であることを前提に、論文内容を全教員の前で発表、議論を行い、様々な角度からの質疑にも応えさせるなど、博士課程にふさわしい真の独立した研究員の養成を目指します。

博士前期課程から引き続き博士後期課程に進学した学生の指導教員は、博士前期課程から継続することが出来ます。また、博士後期課程から入学した学生については、自らの研究テーマにあった指導教員（主指導教員）を選び、全期間を通じて研究指導を受けます。研究指導体制については、博士前期課程同様に学生がより多様な視点から研究ができるよう、副指導教員を設けて、研究活動を進めます。

必修科目：演習および「ベンチャー起業講究」「知財マネジメント講究」「科学戦略講究」「先端医科学講究」を必修科目としています。演習では、自らの博士論文の研究テーマに関連する最新の学術論文の内容を報告し、問題点を深く掘り下げて考察します。

選択科目：先端的科目として各研究分野の講究および自己の研究に必要な周辺知識を得るために必要な講義を選択受講します。

*****「博士前期課程学外推薦」について*****

生命医科学研究科では、平成 28 年度入試より「学外推薦」を新設しました。

学外推薦は、本学学生以外であるとともに本研究科に必ず入学する意思のある方を対象に行う募集区分です。出願する際、必ず希望研究指導教員へ事前に連絡し、当該教員から承認印をもらう必要があります（ただし、希望指導教員の承認が得られても合格が保証されるものではありません）。学外推薦は、一般選抜に先がけて行われます。そのため、希望する研究室へ優先的に配属されるという利点があります。なお、出願時に英語の外部スコア（TOEFL、TOEIC 等）の提出が必須となりますので、事前にご準備ください。

生命医科学研究科 博士前期課程

1 平成29年度 入学試験概要

	学外推薦	第1期募集	第2期募集
出願資格区分	(1)一般選抜 (2)外国人特別選抜 (3)社会人特別選抜 ※本学学生は除く	(1)一般選抜 (2)外国人特別選抜 (3)社会人特別選抜	(1)一般選抜 (2)外国人特別選抜 (3)社会人特別選抜
募集人員	5名	15名	若干名
出願期間	平成28年 6月 7日(火) ～ 6月10日(金) 消印有効	平成28年 7月21日(木) ～ 7月25日(月) 消印有効	平成28年10月31日(月) ～ 11月 4日(金) 消印有効
事前審査書類提出 締切日 ※該当者のみ	平成28年 5月 6日(金) 必着	平成28年 6月30日(木) 必着	平成28年 9月30日(金) 必着
選抜方法	・英語資格による審査 ・口述試験	・筆記試験(英語) ・口述試験 ※社会人特別選抜の受験 生は、口述試験のみ	口述試験 ※全出願資格区分 共通
試験場	横浜市立大学 鶴見キャンパス		
試験日	平成28年 7月 2日(土)	平成28年 8月 8日(月)	平成28年11月26日(土)
合格発表日	平成28年 7月15日(金)	平成28年 8月19日(金)	平成28年12月16日(金)
入学手続期間 (郵送もしくは直接持参)	平成28年 7月25日(月) ～ 7月28日(木) ※郵送の場合 7月28日消印有効 (7月15日(金)～ 入学金等納入可)	平成28年 9月 2日(金) ～ 9月 8日(木) ※郵送の場合 9月 8日消印有効 (8月19日(金)～ 入学金等納入可)	平成28年12月20日(火) ～ 12月26日(月) ※郵送の場合 12月26日消印有効 (12月16日(金)～ 入学金等納入可)

※海外の住所からの出願について

郵送中の紛失や未着等のトラブルを避けるためにも、原則、海外の住所からの出願はできません。また、受付後の受験票や合格通知書等送付の際の宛先は、必ず日本国内の住所(海外在住の場合は、日本在住の知人等の住所)としてください。

2 出願資格（学外推薦、第1期募集、第2期募集 共通）

（1）一般選抜

日本国籍を有する者または日本国の永住許可を得ている者、その他これに準ずる者で次の項目のいずれかに該当する者

- ア 日本において4年制大学を卒業した者または平成29（2017）年3月31日までに卒業見込みの者
- イ 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者または平成29（2017）年3月31日までに学士の学位を取得見込みの者
- ウ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者または平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者
- エ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者または平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者
- オ 日本において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者または平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者
- カ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者または平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者
- キ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- ク 本研究科において、個別の入学審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

[注1] 上記「イ」に該当する者とは、学位授与機構または大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者および授与される見込みの者となります。

[注2] 上記「ク」によって出願する者は事前審査を行いますので、6ページの「3 事前審査」を参照してください。

（2）外国人特別選抜

外国人（在留資格が永住の者を除く。また、日本国籍との二重国籍者は含まない）で、上記「一般選抜」出願資格項目のア～クのいずれかに該当する者

[注1] 第2期募集で出願する外国人の方は、日本の在留資格（短期滞在を除く）を有する者としてします。

[注2] 事前審査対象項目については、「一般選抜」と同様です。

（3）社会人特別選抜

次の項目のすべてに該当する者

- ア 「一般選抜」出願資格項目のア～クのいずれかに該当する者で、入学時まで同一の企業、教育研究機関等に1年以上正規職員として勤務し、所属長の推薦を受けた者
- イ 「一般選抜」出願資格項目のア～クのいずれかに該当する者で、入学後も引き続き同一の企業、教育研究機関等に正規職員としての身分を有する者

[注1] 外国籍の方については、在留資格が永住に限ります。

[注2] 事前審査対象項目については、「一般選抜」と同様です。

3 事前審査（学外推薦、第1期募集、第2期募集 共通）

一般選拔出願資格「ク」により出願する方（外国人特別選抜、社会人特別選抜含む）は、出願資格の認定のため、次のとおり事前審査を行いますので、必要書類を取りそろえ、下記期日までに教育推進課鶴見キャンパス担当へ提出してください。

学外推薦：平成28年 5月 6日（金）

第1期募集：平成28年 6月30日（木）

第2期募集：平成28年 9月30日（金）

〔窓口受付〕 9時～17時（土・日・祝日を除く）

〔郵送受付〕 下記必要書類を定形外角形2号の封筒（この要項に添付している封筒とは別に各自で用意する）に入れ、「生命医科学研究科博士前期課程事前審査書類在中」と朱書きの上、簡易書留郵便で期限までに必着扱いで下記提出先まで送付してください。

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-7-29
横浜市立大学鶴見キャンパス 教育推進課 鶴見キャンパス担当

（1）必要書類等

- ・履歴書（学歴、職歴、研究業績を記載したもの）（様式任意）
- ・指導教員の学力を証明する推薦書（様式任意）または、学力を示す論文
- ・最終学歴の成績証明書
- ・研究計画書（日本語4,000字程度）（様式任意）
- ・審査結果通知用郵便料（簡易書留による送付のため392円分の郵便切手）

〔注〕 上記以外に、本研究科が必要と認めたものについて、提出を求める場合があります。

（2）審査結果

事前審査の結果は、下記日程までに本人あてに通知します。

学外推薦：平成28年 5月27日（金）

第1期募集：平成28年 7月15日（金）

第2期募集：平成28年10月14日（金）

（3）出願手続

事前審査により出願資格の認定を受けた方は、本募集要項に基づき出願手続を行ってください。

4 出願手続

（1）出願期間

学外推薦：平成28年 6月 7日（火）～ 6月10日（金）消印有効

第1期募集：平成28年 7月21日（木）～ 7月25日（月）消印有効

第2期募集：平成28年10月31日（月）～11月 4日（金）消印有効

（2）提出方法

出願書類を一括して、本要項巻末に綴じ込んである所定の封筒に入れ（封筒に入らない場合は各自で用意してください）、以下の方法で提出してください。

ア 窓口出願

出願期間内に教育推進課鶴見キャンパス担当で受け付けます。

※受付時間は、9時～17時とします。

イ 郵送出願

簡易書留（速達）郵便で下記提出先まで郵送してください。

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-7-29

横浜市立大学鶴見キャンパス 教育推進課 鶴見キャンパス担当

5 出願書類（学外推薦、第1期募集、第2期募集 共通）

<一般選抜、外国人特別選抜>

出願書類	注意事項
入学願書	本学所定の様式。（受験票・写真票等も含む）
卒業（見込）証明書	出身大学または在籍大学作成のもの。（学位記およびその写しは不可）
成績証明書	出身大学または在籍大学の学長または学部長が作成したもの。
写真 2枚 縦4cm×横3cm	写真票は入学願書および写真票に貼付してください。 （願書受付日前3か月以内に撮影したもの）
小論文	これまでの修学内容（卒業研究等）および本学で取り組みたい研究分野・課題等について記述（本学所定の用紙）してください。
英語資格の 公式な成績証明書	※学外推薦および第1期の筆記試験の免除を希望する場合に提出 TOEFL (iBT、PBT、CBT を含む)、TOEIC、IELTS または英検の公式な成績証明書。※コピー不可
入学検定料の 振替払込受付証明書	入学検定料30,000円を所定の払込票によりゆうちょ銀行（郵便局）で納付し、領収印を受けた振替払込受付証明書（払込用紙の一番右）を出願書類の所定の箇所に貼付してください。なお、払込手数料は本人負担となります。
返信用封筒	所定の封筒（長3）1通（受験票送付用）に住所・氏名を明記の上、362円分の切手を貼付してください。
あて名ラベル	2枚（所定の用紙に住所・氏名を明記してください）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜出願資格「キ」に該当する方は、それを証明する書類。 ・出願資格認定書（該当者のみ） 本研究科における出願資格審査により資格認定を受けた方。 ・本研究科の受験許可証（該当者のみ） 出願時、他の大学院に在籍中の方は（修了見込み者除く）、当該大学院の在学証明書。 ・外国人の方は住民票等の写し 現在、日本国に在住している方は、住民票の写し（原本）またはパスポートのコピー（顔写真のあるページおよび在留資格・期限の分かるページ）または在留カードのコピー（両面）を提出すること。

[注] 第2期募集で出願する外国人は日本の在留資格（短期滞在を除く）を有する方とします。
各種証明書の氏名に変更のある方は、戸籍抄本も提出してください。

<社会人特別選抜>

出願書類	注意事項
入学願書	本学所定の様式。(受験票・写真票等も含む)
卒業証明書	出身大学または在籍大学作成のもの。(学位記およびその写しは不可)
推薦書	現在の勤務先の所属長によるもので <u>厳封</u> したもの。(本学所定の用紙)
成績証明書	出身大学の学長または学部長が作成したもの。
写真 2枚 縦4cm×横3cm	写真票は入学願書および写真票に貼付してください。 (願書受付日前3か月以内に撮影したもの)
志望理由書	本研究科に入学したいと考えた動機と目的を書くこと。(様式は任意)
業績報告書	卒業論文および研究論文を有するもの。(様式は任意) 主要な論文1編について、その概要を200字以内で書くこと。
業務報告書	過去から現在に至る研究、技術職の内容を書くこと。(様式は任意)
英語資格の 公式な成績証明書	※学外推薦を希望する場合に提出 TOEFL (iBT、PBT、CBT を含む)、TOEIC、IELTS または英検の公式な成績証明書。※コピー不可
入学検定料の 振替払込受付証明書	入学検定料 30,000 円を所定の払込票によりゆうちょ銀行(郵便局)で納付し、領収印を受けた振替払込受付証明書(払込用紙の一番右)を出願書類の所定の箇所に貼付してください。なお、払込手数料は本人負担となります。
返信用封筒	所定の封筒(長3)1通(受験票送付用)に住所・氏名を明記の上、362円分の切手を貼付してください。
あて名ラベル	2枚(所定の用紙に住所・氏名を明記してください)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜出願資格「キ」に該当する方は、それを証明する書類。 ・出願資格認定書(該当者のみ) 本研究科における出願資格審査により資格認定を受けた方。 ・在職証明書(該当者のみ) 社会人特別選抜で出願する方は、現在の勤務先の在職証明書。 ・本研究科の受験許可証(該当者のみ) 出願時、他の大学院に在籍中の方は(修了見込み者除く)、当該大学院の在学証明書。 ・外国人の方は住民票等の写し 現在、日本国に在住している方は、住民票の写し(原本)またはパスポートのコピー(顔写真のあるページおよび在留資格・期限の分かるページ)または在留カードのコピー(両面)を提出すること。

[注] 各種証明書の氏名に変更のある方は、戸籍抄本も提出してください。

6 入学検定料

30,000円(納入された入学検定料は、返還いたしません)

7 選抜方法

出願書類、筆記試験および口述試験を総合的に判断して判定します。

※口述試験は面接のみで、面接時間は20分程度となります。

※研究内容と第1志望から第3志望までの研究指導教員の研究内容が合わないなどの場合、不合格となることがあります。

(1) 学外推薦

英語資格の公式な成績証明書（原本のみ）の提出が必須となります。

◆一般選抜、外国人特別選抜、社会人特別選抜 共通

試験科目	試験内容	配点	合否判定基準
英語資格	英語資格の公式な成績証明書をもとに換算。 筆記試験は無し。	100点	英語資格および口述試験の合計得点の高い方から順に合格とする。
口述試験	出願時に提出された小論文に基づき、これまでの修学内容の概要発表後、専門知識、一般学力についての口頭試問を行う。	100点	

(2) 第1期募集

◆一般選抜、外国人特別選抜

試験科目	試験内容	配点	合否判定基準
筆記試験 英語資格 ※	英語の基礎的能力を判断する英文和訳、和文英訳を含む総合問題。 (英文解釈は日本語で解答すること)	100点	英語および口述試験の合計得点の高い方から順に合格とする。 外国人特別選抜では、講義を理解するのに必要な日本語の能力を有することも判定基準とする。
口述試験	出願時に提出された小論文に基づき、これまでの修学内容の概要発表後、専門知識、一般学力についての口頭試問を行う。	100点	

※第1期募集での英語資格による英語筆記試験免除について

出願時に英語力に関する証明書を提出することで、各英語資格の成績を英語筆記試験の得点に換算し、英語の筆記試験を免除することができます。各成績の換算は、本学所定の換算式によって行います。

【英語資格】

TOEFL (iBT、PBT、CBTを含む)、TOEIC、IELTS または英検

英語力に関する証明書を提出し、さらに筆記試験を受験することもできます。その場合、どちらか高得点のものを判定得点として採用します。

	英語資格	英語資格換算点	本学筆記試験	採用判定得点
例1	TOEFL-PBT500	65	不受験	65点
例2	TOEIC600	65	50	65点
例3	IELTS5.0	65	75	75点

◆社会人特別選抜

試験科目	試験内容	配点	合否判定基準
口述試験	企業、教育研究機関等で行っている研究内容および入学後の研究計画について説明後、研究能力を口頭試問で問う。	100点	研究を進める上で必要な基礎研究能力および社会経験の有無を判定基準とする。

(3) 第2期募集

◆一般選抜、外国人特別選抜

試験科目	試験内容	配点	合否判定基準
口述試験	出願時に提出された小論文に基づき、これまでの修学内容の概要発表後、専門知識、一般学力についての口頭試問を行う。	100点	口述試験の合計得点の高い方から順に合格とする。 外国人特別選抜では、講義を理解するのに必要な日本語の能力を有することも判定基準とする。

◆社会人特別選抜

試験科目	試験内容	配点	合否判定基準
口述試験	企業、教育研究機関等で行っている研究内容および入学後の研究計画について説明後、研究能力を口頭試問で問う。	100点	研究を進める上で必要な基礎研究能力および社会経験の有無を判定基準とする。

8 試験日程・試験場

(1) 試験日程

学外推薦

試験日	試験科目	時間
平成28年 7月 2日(土)	英語資格による審査	—
	口述試験	試験日までに別途通知

第1期募集

試験日	試験科目	時間
平成28年 8月 8日(月)	筆記試験(英語)または英語資格による審査	10時00分～11時30分
	口述試験	試験日までに別途通知

※社会人特別選抜は、口述試験のみとなります。

第2期募集

試験日	試験科目	時間
平成28年11月26日(土)	口述試験	試験日までに別途通知

(2) 試験場

横浜市立大学 鶴見キャンパス

9 合格発表

(1) 日時

学外推薦 : 平成28年 7月15日(金) 11時

第1期募集 : 平成28年 8月19日(金) 11時

第2期募集 : 平成28年12月16日(金) 11時

(2) 場所

横浜市立大学 鶴見キャンパス 掲示板

(3) その他

ア 合格発表は、本学のホームページ(<http://www.yokohama-cu.ac.jp/>)でも確認できます。

イ 発表後、合格者には合格通知書を送付します。

[注]以下の日程を過ぎても届かない場合は、必ずアドミッションズセンターまで
連絡(土・日・祝日を除く。☎045-787-2054)してください。

学外推薦 : 7月20日(水)

第1期募集 : 8月24日(水)

第2期募集 : 12月20日(火)

ウ 合格について、電話等での問い合わせには応じられません。

エ 出願書類に虚偽の記載があった場合には、合格を取り消します。

10 入学手続

合格者には、合格通知書と入学手続書類を郵送します。

(1) 入学手続期間

【学外推薦 合格者】 平成28年 7月25日(月)～7月28日(木) 消印有効
(入学金等納入金の入金可能期間 : 7月15日(金)～7月28日(木))

【第1期募集合格者】 平成28年 9月 2日(金)～9月 8日(木) 消印有効
(入学金等納入金の入金可能期間 : 8月19日(金)～9月 8日(木))

【第2期募集合格者】 平成28年12月20日(火)～12月26日(月) 消印有効
(入学金等納入金の入金可能期間 : 12月16日(金)～12月26日(月))

(2) 入学手続方法

入学手続に要する書類等を一括し、郵送(簡易書留)または直接持参により提出してください。詳細は、合格者に送付する入学手続書類で確認してください。

なお、直接持参する場合の受付時間は、入学手続期間内の9時から17時までです(土・日・祝日を除く)。

(3) 入学金

市内出身者および横浜市立大学卒業生 141,000円

市外出身者 282,000円

[注1] 入学金は平成28年度の金額です。金額について改定する場合があります。

入学金が改定された場合は、改定後の金額が適用されます。

[注2] 納入された入学金は、返還いたしません。

[注3] 手続期間内に入学手続を完了しないと入学が許可されませんので、十分注意してください。

[注4] 横浜市立大学卒業生に横浜市立大学研究生は含まれません。

11 その他の納入金

本学の学術・研究・学生生活の充実や福利厚生の上昇を目的とした活動を行う各団体の会費等の納入金があります。(入学手続き時に納入していただきます)

- (1) 学術研究会費 1, 000円
- (2) 後援会費 30, 000円

12 授業料

年額535, 800円

※授業料は平成28年度の金額です。金額について改定する場合があります。本学入学後に授業料が改定された場合は、改定後の授業料が適用されます。

13 長期履修制度について

(1) 長期履修制度とは

横浜市立大学大学院学則および同長期履修学生規程に基づき、職業を有するため修業年限を超えて一定期間延長して計画的に教育課程を履修できる制度です。本人の申請に基づき、研究科における審査・承認を経て、学長の許可により長期履修学生となります。

(2) 資格

次のいずれにも該当する者

- ア 職業を有し、かつ特段の事情を有する者
- イ 修業年限の前年度までの者

(3) 在学期間

大学院学則第7条に定める在学期間以内

(生命医科学研究科博士前期課程 4年以内(休学期間を除く))

(4) 授業料

ア 修業年限の期間 … 通常の授業料

イ 修業年限以降の長期履修学生としての履修期間 … 通常の授業料の20%相当額を負担

【例】生命医科学研究科博士前期課程(下記年数に休学期間を含みません)

1年目～2年目 … 通常の授業料

3年目以降の長期履修学生として許可された期間 … 通常の授業料の20%相当額を負担

[注] 授業料減免年度ごとに、減免申請および在職が確認できる証明書の提出が必要となります。

14 注意事項

(1) 試験当日には、必ず受験票を携帯してください。

(2) 配属志望先の選定にあたっては、「研究内容および研究指導教員」のページを参考にし、**事前に志望教員(第1志望から第3志望全て)に研究テーマなどについて必ず相談**してください。

※入学願書に記載する志望教員を含め、ここでいう事前相談をした教員とは「入試説明会」以外で直接事前相談をした教員をさします。

※可能な限り、第1志望教員から第3志望教員を全て記入してください。

(3) 試験の遅刻限度時刻は、試験開始後30分までとなります。それ以降については、相応の理由がない限りは受験できません。

(4) 出願手続き後の提出書類の内容変更は、認められません。

- (5) 納入金（入学検定料を含む）および提出書類は、一切返還いたしません。
- (6) 各種証明書は、原本に限ります。
- (7) 官公庁または企業等に在籍している方は、入学手続の際、その所属長または代表者の就学承認書が必要となりますので、予め用意しておいてください。
- (8) 本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに出席者に通知します。
- (9) 入学金の「市内出身者」とは、入学の日の1年以上前（平成28年4月1日以前）から引き続き横浜市内に本人または扶養義務者が住所を有する方をいいます。
- (10) 試験の成績によっては、合格者数が募集定員に満たない場合もあります。
- (11) 在籍大学を卒業後、卒業証明書および成績証明書を平成29年3月24日（金）までにアドミッションズセンターへ提出してください（横浜市立大学卒業生および出願時に提出している場合は不要）。在籍の大学を卒業できなかった場合は、入学資格を失います。

15 入学辞退

入学手続完了後、やむを得ない事情で入学を辞退する場合は、「入学辞退届」の提出が必要です。この場合、平成29年3月31日（金）午後5時までにアドミッションズセンターまで連絡してください（土・日・祝日を除く。☎045-787-2054）。辞退手続きを完了された方には、入学金を除く既納入金を返還します。

平成29年4月1日をもって学籍が発生します。平成29年3月31日（金）午後5時までに連絡が無い場合は、授業料等の納入金を納めなくてはなりませんので、注意してください。

教育研究内容および担当教員(博士前期課程)

部門	研究室	担当教員	部門の要旨	教育研究の内容
構造医科学	構造生物学	佐藤 衛 (教授) 禾 晃和 (准教授) 有田 恭平 (准教授)	X線及び中性子線をプローブとした回折・散乱法により、巨大な分子量を持つ生体超分子複合体の立体構造を原子・分子レベルで解明し、生体超分子複合体の構造と機能の関連を研究する。	<p>タンパク質を中心に核酸やそれらの有機集合体である生体超分子複合体の詳細な立体構造解析を通して、タンパク質-タンパク質/タンパク質-核酸の多面的な分子間相互作用を明らかにし、生体内で起こる様々なプロセスを構造的に教育・研究する。</p> <p>I. タンパク質構造の物理化学</p> <p>① タンパク質の構造と揺らぎ</p> <p>② タンパク質の機能と揺らぎ</p> <p>II. タンパク質の立体構造に基づく構造と機能の相関-1</p> <p>① 受容体タンパク質の発現と細胞内輸送</p> <p>② 神経の発生に関わるシグナル伝達</p> <p>③ 脳の形成に関わるシグナル伝達</p> <p>④ タンパク質切断を介したシグナル伝達</p> <p>III. タンパク質の立体構造に基づく構造と機能の相関-2</p> <p>① DNAメチル化とヒストン修飾によるクロマチン構造の制御機構</p> <p>② エピジェネティクス関連タンパク質の構造と機能</p>
	細胞システム科学	今本 尚子 (大学院 客員教授) 岡田 眞里子 (大学院 客員教授)		<p>細胞核の生体超分子複合体の構造と動態や、生体膜から細胞核への情報の伝達機構の解析を通して、ゲノムの高次構築と機能発現の時空的制御を、細胞機能との相関で理解する。生物物理学的、生化学的、分子細胞生物学的解析手法を広く取り込んだ教育・研究をおこなう。さらに、ゲノム構造とその機能制御を、ゲノム情報科学的もしくはシステムズバイオロジー的側面から研究する。</p> <p>I. 細胞核と染色体の構造構築と機能制御</p> <p>① 細胞核の構造構築：クロマチンと核膜</p> <p>② 細胞核の構造構築：核構造と細胞周期</p> <p>③ 染色体の構築と動態制御</p> <p>④ 細胞核の機能制御：核-細胞質間輸送と遺伝子発現制御</p> <p>II. 細胞内情報伝達のシステム機構</p> <p>① 細胞内情報伝達による核への情報伝播</p> <p>② 細胞内情報伝達のシステム構造</p> <p>③ 細胞内分子動態とフィードバック制御</p> <p>④ 細胞内情報伝達の数理情報解析</p>
創薬基盤	構造創薬科学	Jeremy Tame (教授) 朴 三用 (教授)	<p>生体超分子複合体の構成因子の高次構造解析を通して機能発現のメカニズムを明らかにする。得られた構造情報を薬剤設計等に应用する。</p> <p>ケミカルバイオロジーに基づく次世代の創薬探索技術および疾患診断プローブの開発に取り組む。さらに、創薬支援に資するクライオ電子顕微鏡構造解析を実施する。</p>	<p>生命現象の仕組みを理解するためにはタンパク質の機能を調べる必要がある。タンパク質の具体的な働きを理解するために、X線結晶構造解析、分子生物学、その他様々な生物物理学的手法を用いてタンパク質の機能・構造学的研究を行っている。</p> <p>① タンパク質の構造の入門</p> <p>② 構造生物学</p> <p>③ X線結晶構造解析</p> <p>④ 構造生物学の応用</p>
	核酸科学	和田 章 (大学院 客員准教授) 重松 秀樹 (大学院 客員准教授)		<p>I. ケミカルバイオロジーによる創薬基盤研究</p> <p>① 各種疾患の原因とされる生命現象を阻害する特殊化合物の探索とそれらの作用機序解析</p> <p>② 疾患関連分子を認識する核酸/タンパク質の人工創成とそれらを利用したバイオセンシングプローブの開発</p> <p>II. クライオ電子顕微鏡構造生物学</p> <p>① ウイルス・リボソーム・細胞骨格などの巨大分子複合体の構造解析</p> <p>② 生理的条件における膜蛋白質動的機能構造解析手法の検討手法の検討</p>

部門	研究室	担当教員	部門の要旨	教育研究の内容
機能構造	機能構造科学	高橋 栄夫 (教授) 佐々木 幸生 (准教授)	<p>タンパク質が関わる多様な分子認識機構を解明するNMR解析手法の開発を行うとともに、他の物理化学的手法を併用した産業応用上重要なタンパク質複合体の構造解析を進める。</p> <p>神経回路網形成、特にシナプス形成に関与するタンパク質複合体やその翻訳に関与するRNA-タンパク質複合体の動態と機能を分子生物学や細胞生物学的手法を用いて解析する。</p> <p>細胞骨格繊維は、多様な現象で中心的機能を果たす。しかし同じ繊維構造が多機能性を果たすことができる仕組みはよくわかっていないので、とくにアクチンフィラメントの構造多型性に着目して研究する。</p> <p>細胞の機能に重要なタンパク質やその複合体の構造と機能の関係を、電子顕微鏡解析技術等を用いた構造生物学的観点から研究する。</p>	<p>I. NMR分光法を主たる解析手法として、立体構造の見地から生体分子の構築原理とその分子認識（複合体形成）機構を解明し、分子機能がいかに制御・発揮されるかを理解することを目指す。</p> <p>① タンパク質-リガンド相互作用機構を解明するNMR解析手法の開発および創薬標的タンパク質複合体への適用</p> <p>② 生体分子間相互作用を変調する薬物分子等の作用機序の解明</p> <p>③ 生体高分子の局所的ダイナミクスと分子認識への寄与の解析</p> <p>④ 相互作用情報をもとにした機能性分子創製</p> <p>II. 神経細胞における翻訳調節と神経機能の関連について教育研究を行う。マイクロRNAや発達障害に関連するRNA結合タンパク質による翻訳調節機構とシナプス形成に特に焦点を当て、研究を進める。</p> <p>① 発達障害の原因遺伝子産物による翻訳制御機構の解明</p> <p>② 神経突起内マイクロRNAの挙動と神経機能の解析</p> <p>③ シナプス形成に関連するタンパク質の機能構造解析</p>
	構造細胞科学	富井 健太郎 (大学院 客員教授) 三尾 和弘 (大学院 客員准教授)		<p>アクチンは細胞内において多様で重要な機能をはたしており、様々な疾患とも関連している。そうした多機能性は、アクチンフィラメントが多様なアクチン結合タンパク質と適切に相互作用するためであると考えられている。それでは、それぞれのアクチンフィラメントはどのようにして、細胞内にある多様なアクチン結合タンパク質のなかから適切なもののみ正しく相互作用するのだろうか。われわれは、アクチンフィラメントの多機能性にはフィラメントの協同的な構造多型性が関連することを提唱し、分子生物学と構造生物学を融合したアプローチで研究を進めている。</p> <p>またタンパク質の機能理解や効率的な新薬シーズの開発には構造情報が不可欠である。様々な構造解析手法が知られる中で、膜タンパク質などの難結晶性試料や複雑な構造を持つ高分子複合体などの解析には電子顕微鏡が適している。撮像した膨大な数の電子顕微鏡画像から情報学的解析を繰り返して元の立体構造を導き出す単粒子解析法などの技術を使って、イオンチャネルやトランスポーターなどの構造・機能解析を進めている。また核膜内面に局在する核ラミナとその変異によって発症するラミン病（ラミノパチー）の発症機構に関する研究を電子顕微鏡、結晶解析、NMR解析などの構造学的手法、生化学、分子生物学、生物物理学等様々な手法を組み合わせで行っている。</p>
システム生物学	生命情報科学	木寺 詔紀 (教授) 池口 満徳 (教授)	<p>タンパク質や核酸など生体高分子の構造形成や機能発現の機序を、分子動力学法などの分子シミュレーションの方法論と、生体高分子情報のデータベースに基づいた解析法を用いて明らかにする研究を行う。また、動植物や微生物が共栄するため必要な共代謝に関わる分子群や生物叢の変動を計測し、情報抽出するシステム生物学的手法を構築する。これを食料源や生存環境が変化した際の宿主・常在菌の恒常性評価へと応用し、例えば新興国での食・衛生環境改善、日本の超高齢社会化・輸入依存低減といった問題解決型科学へと展開する。</p>	<p>タンパク質や核酸など生体高分子の構造形成や機能発現の機序について、計算科学や情報科学の方法を用いた研究・教育を行う。具体的には、物理化学原理に基づいた分子動力学法などの分子シミュレーションの方法論と、生体高分子情報を扱う種々のデータベースに基づいた解析法などを適用して研究を進める。</p>
	生命分析科学	菊地 淳 (大学院 客員教授) 守屋 繁春 (大学院 客員准教授)		<p>動植物や微生物が共栄するため必要な共代謝に関わる分子群や生物叢の変動を計測し、情報抽出するシステム生物学的手法を構築する。</p> <p>① 複雑分子系への計測技術高度化と得られた分析ビッグデータからのデータサイエンス手法構築、ならびにヒトと環境の恒常性評価</p> <p>② 共生系の生物学と環境中からの有用遺伝子資源の探索</p> <p>③ 複雑生態系の共代謝解析技術高度化と物質循環・健康評価への応用</p>

部門	研究室	担当教員	部門の要旨	教育研究の内容
エピゲノム	構造エピゲノム科学	池上 貴久 (教授) 明石 知子 (准教授)	染色体構造を中心とした生体超分子の構造に基づいて、特に転写に関連する複合体の機能を解析する。クロマチン構造およびその機能調節に関連する因子の構造機能解析を行う。	真核生物の高次機能に関するタンパク質を対象に機能の中心となるドメインの立体構造をNMRで解析する。また、全体のストイキオメトリーや安定性、構造変化を質量分析で解析する。さらに、ダイナミクスや相互作用をNMRと質量分析の複数の手法で解析し融合させることにより、これら真核生物の高次機能を構造の側面より解明する。 I. タンパク質と核酸、タンパク質とペプチドなどの複合体を中心に、その立体構造やダイナミクス、相互作用の様式をNMRを使って解析する。特に相互作用により立体構造やダイナミクスに変化を及ぼすような広義のアロステリック効果の解明を目指す。 II. 真核生物の転写に関連するタンパク質、特に、ヌクレオソームの修飾に伴う機能制御がどのような構造変化に基づいて行われているのかについて解明を目指す。またそのための質量分析による新しい方法論やアッセイ法の構築についても研究する。
	分子エピゲノム科学	眞貝 洋一 (大学院 客員教授) 有田 誠 (大学院 客員教授)		哺乳類などの高等真核生物における遺伝子発現の変化や細胞分化過程におこるクロマチン構造の変換について、その制御メカニズムを解明することを目的とする。とくに栄養など外部環境の変化によるエピゲノム制御において、生体内の代謝物の網羅的解析手法（メタボロミクス）を用いた分子メカニズム解析を行ない、細胞外からの様々なシグナルによる細胞機能制御とエピゲノムとの関連を解明する。さらに、時間軸を加味した環境刺激に対してエピゲノム制御系が生体内でどのように応答しエピゲノム状態がどのように変化するのを明らかにするためには、生体内における細胞のエピゲノム変化を継時的に調べる必要がある。マウスの遺伝学的アプローチを駆使して、その実体を明らかにし、その制御機構を解明する。
細胞医科学	分子細胞医科学	古久保 哲朗 (教授) 鈴木 厚 (准教授)	タンパク質等の生体超分子の構造と機能を生化学、遺伝子工学、分子細胞生物学の観点から解明し、細胞内の遺伝子発現や細胞間相互作用などを分子レベルで解明する。 また、免疫学的な解析を通して生命科学を理解するために、分子、細胞レベルでの解析を行い、複雑な免疫機構で働く様々な細胞のシグナル伝達機構、役割、細胞間相互作用を明らかにする。	生命活動の基礎となる諸反応（転写・翻訳・細胞極性・細胞接着・細胞間シグナル伝達等）について未解明の重要な課題を設定し、生化学・分子細胞生物学・分子遺伝学の考え方や実験手法を用いて研究を行い、理解を深める。
	免疫生物学	大野 博司 (大学院 客員教授) 茂呂 和世 (大学院 客員教授)		腸管免疫や自然リンパ球の細胞分子機構について教育・研究する。 腸管免疫：生体の外表面は厚い上皮層からなる皮膚に覆われているが、口腔から直腸の内表面は一層の上皮細胞からなる粘膜に覆われている。中でも腸管は100兆を超える細菌と食物由来抗原に常に曝されており、特殊な免疫機構を備えている。過剰な免疫反応を起こさず、かつ病原体の侵入を防ぐメカニズムを理解するためには腸管上皮や抗原取り込み細胞であるM細胞に着目した研究が必要とされる。そこで、上皮細胞やM細胞の分化・機能を遺伝子学的、分子細胞生物学的手法を用いて解析し、粘膜免疫機構の解明を目指す。 自然リンパ球：獲得免疫機構ではT細胞とB細胞が活躍することが知られてきたが、2010年以降、これらとは異なるリンパ球が多数報告され、自然免疫リンパ球（ILC）と呼ばれるようになった。3つに大別されるILCの中でもILC2は2型サイトカインを産生することでアレルギーや肥満、糖尿病などの代謝疾患で重要な役割をもつことが明らかになっている。ILC2がどのように分化し、2型サイトカインを産生するためにどのようなシグナル伝達機構を使っているかを明らかにするために、分子生物学的解析や試験管内の分化培養システムを用いて研究を進める。

部門	研究室	担当教員	部門の要旨	教育研究の内容
オミックス	プロテオーム科学	川崎 ナナ (教授) 小川 毅彦 (教授) 川崎 博史 (准教授)	<p>質量分析法を中心にしたプロテオーム解析方法を用いて、生体中のタンパク質を網羅的に解析し、その機能、疾患との関係、タンパク質間の機能的つながり等を明らかにする。</p> <p>また、組織培養法による精子形成を題材にして、細胞・組織の現象をタンパク質の発現・機能との関連において理解し、組織再生への応用を目指す。</p> <p>さらに、次世代シーケンサーを駆使した網羅的測定技術や、大量データを効率的に解析するゲノム情報解析技術等を利用し、遺伝情報発現機構、非コードRNAやタンパク質の役割、細胞内ネットワークなど、細胞内の分子レベルでの事象を網羅的・体系的に理解することを目指す。</p>	<p>質量分析法、インフォマティクス、組織培養法などを用いて、生体中のタンパク質集団（プロテオーム）等を解析することによって、タンパク質の機能や、タンパク質に係わる様々な生命現象を明らかにする。</p> <p>I. 疾患や医薬品による治療などに関連して変動するタンパク質を明らかにすることによって、医薬品開発や、病気の診断、治療効果の予測、個別化医療などに役立つバイオマーカー開発につながる研究を行う。</p> <p>II. マイクロ流体システムを用いて <i>in vivo</i> に近似した <i>in vitro</i> 系を作り、精子形成を題材として組織再生・機能発現・構造維持を目指した研究を行う。さらにトランスクリプトーム解析・プロテオーム解析を行うことにより、現象を分子レベルで包括的に解明することを目指す。</p> <p>III. プロテオームを比較し、それを構成するタンパク質の構造を対称性に基づき解析して、分子進化的な観点から構造と機能を解明する。</p>
	機能ゲノム科学	Piero Carninci (大学院 客員教授) 川路 英哉 (大学院 客員准教授)	<p>ヒトの健康・疾患の背後には細胞の変化があるが、この基盤を構成する分子制御ネットワークの解明を目指す。構成分子の挙動を網羅的・体系的にシステムレベルで捉え、(I) 転写因子やエピジェネティック修飾などにより制御される遺伝発現機構、(II) 転写の結果作られる非コードRNAのまだ知られていない機能、(III) 細胞を意図したとおりに変化させる制御法、等の解明・開発を目指す。アプローチとしては特に、(a) 次世代シーケンサーを駆使したトランスクリプトーム・エピジェネティックマーク等の網羅的測定技術、(b)大量データを効率的に解析するゲノム情報解析技術、(c)遺伝子発現を人為的に操作する技術、等を用いる。前期課程では個別のテーマをすすめることで、解析技術の習熟と共に、システムワイドな研究開発の基本的な考え方を身に付ける。</p>	<p>ヒトの健康・疾患の背後には細胞の変化があるが、この基盤を構成する分子制御ネットワークの解明を目指す。構成分子の挙動を網羅的・体系的にシステムレベルで捉え、(I) 転写因子やエピジェネティック修飾などにより制御される遺伝発現機構、(II) 転写の結果作られる非コードRNAのまだ知られていない機能、(III) 細胞を意図したとおりに変化させる制御法、等の解明・開発を目指す。アプローチとしては特に、(a) 次世代シーケンサーを駆使したトランスクリプトーム・エピジェネティックマーク等の網羅的測定技術、(b)大量データを効率的に解析するゲノム情報解析技術、(c)遺伝子発現を人為的に操作する技術、等を用いる。前期課程では個別のテーマをすすめることで、解析技術の習熟と共に、システムワイドな研究開発の基本的な考え方を身に付ける。</p>
生体医科学	生体機能医科学	竹居 光太郎 (教授) 林 郁子 (准教授) 片岡 浩介 (准教授)	<p>生体の高次生命現象について、遺伝子発現・細胞骨格系・シグナル伝達系の構造と機能制御に焦点を当て、機能生物学的な観点から解明する。また、バイオマーカーや創薬ターゲットになるタンパク質を探索する。生体蛍光イメージングを用いて免疫細胞動態を明らかにする。</p>	<p>I. 神経系の発生と再生の分子機構の解明と神経再生医療技術の創成（竹居）</p> <p>① 新規機能分子LOTUSの生物学的機能の解析 ② 神経再生医療技術の開発 ③ 光照射分子不活性法による新規機能分子の探索</p> <p>II. 遺伝子発現を支える生体分子の構造と機能を分子レベルで研究する（片岡）</p> <p>① 転写反応に関与する生体分子の解析 ② 疾患に関与する遺伝子発現機構の解析 ③ 細胞分化に関与する遺伝子発現機構の解析</p> <p>III. 細胞骨格系タンパク質の構造機能解析（林）</p> <p>① 蛋白質間相互作用の解析 ② 繊維状構造をとる分子構造基盤 ③ 細胞移動・細胞分裂における細胞骨格因子の構造機能解析</p>
	バイオイメージング	宮脇 敦史 (大学院 客員教授) 岡田 峰陽 (大学院 客員教授)	<p>I. 可視光を扱う光学イメージング技術において活躍する蛍光タンパク質および化学発光タンパク質について、構造、機能、分子進化などを研究する（宮脇）。</p> <p>II. 蛍光タンパク質の遺伝子導入マウス等を用いた可視化技術により、様々な免疫応答における免疫細胞の組織内移動や、細胞間相互作用の動態を研究する（岡田）。</p>	<p>I. 可視光を扱う光学イメージング技術において活躍する蛍光タンパク質および化学発光タンパク質について、構造、機能、分子進化などを研究する（宮脇）。</p> <p>II. 蛍光タンパク質の遺伝子導入マウス等を用いた可視化技術により、様々な免疫応答における免疫細胞の組織内移動や、細胞間相互作用の動態を研究する（岡田）。</p>

博士前期課程カリキュラム(平成 28 年度参考)

科目区分	科目名	単位数	備考
必修科目	生命医科学総論*	2 単位	合計 20 単位
	生命医科学特別研究	8 単位	
	生命医科学演習*	4 単位	
	生命医科学リテラシー	2 単位	
	生命医科学序説*	2 単位	
	神経科学序説*	2 単位	
選択必修科目	情報生命医科学概説*	1 単位	合計 5 単位以上
	分子生物学概説*	1 単位	
	物理化学概説*	1 単位	
	生体高分子科学概説*	1 単位	
	オミックス科学概説*	1 単位	
	分子病態医科学概説*	1 単位	
	ポストゲノム科学概説*	1 単位	
	細胞機能探索科学概説*	1 単位	
	ゲノミクス概説*	1 単位	
	生物有機科学概説*	1 単位	
	細胞生物学概説*	1 単位	
	生命科学概説*	1 単位	
	分子代謝学概説*	1 単位	
	核酸科学概説*	1 単位	
	特別講義 I	1 単位	
	特別講義 II	1 単位	
応用倫理学	1 単位		
選択科目	各特論選択科目 (1 科目を除き*)	各 1 単位	合計 5 単位以上
自由科目	教科指導の研究*	2 単位	
	理科教育ケーススタディ*	2 単位	

◆履修方法

上記一覧表で指定された区分に従い、合計 30 単位以上に相当する科目を必修または選択で履修します。

◆専修免許（理科）について

*の付いた科目は、専修免許課程の理科の教科に関する科目です。専修免許申請時に、中学校または高等学校の教諭一種免許状（理科）を取得しているか、又は同免許状の授与を受ける資格を有している方は、本研究科博士前期課程在学中に、専修免許の理科の教科に関する科目を 24 単位以上取得することで、中学校及び高等学校教諭専修免許状（理科）を取得できます。

研究指導教員 一覧

部 門	研究室	教員氏名	連絡先 (E-Mail)
構造 医科学	構造 生物学	さとう まもる 佐藤 衛 (教授)	msato@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		のぎ てるかず 禾 晃和 (准教授)	nogi@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		ありた きょうへい 有田 恭平 (准教授)	aritag@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
	細胞 シス テム 科学	いまもと なおこ 今本 尚子 (大学院客員教授) *	nimamoto@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		おかだ まりこ 岡田 眞里子 (大学院客員教授) *	marikoh@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
機能 構造	機能 構造 科学	たかはし ひでお 高橋 栄夫 (教授)	hid@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		ささき ゆきお 佐々木 幸生 (准教授)	y_sasaki@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		さかくら まさよし 坂倉 正義 (助教)	sakakura@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
	構造 細胞 科学	とみい けんたろう 富井 健太郎 (大学院客員教授) **	—
		みお かずひろ 三尾 和弘 (大学院客員准教授) **	kazu.mio@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
創薬 基盤	構造 創薬 科学	ジェレミー R. H. テイム Jeremy R. H. Tame (教授)	jtame@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		ぱく さんよう 朴 三用 (教授)	park@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		—	—
	核酸 科学	わだ あきら 和田 章 (大学院客員准教授) *	awada@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		しげまつ ひでき 重松 秀樹 (大学院客員准教授) *	h.shigematsu@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
エピ ゲノム	構造 エピ ゲノム 科学	いけがみ たかひさ 池上 貴久 (教授)	ikegamit@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		あかし さとこ 明石 知子 (准教授)	akashi@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		ながどい ありたか 長土居 有隆 (助教)	nagadoi@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
	分子 エピ ゲノム 科学	しんかい よういち 眞貝 洋一 (大学院客員教授) *	yshinkai@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		ありた まこと 有田 誠 (大学院客員教授) *	marita@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		いけだ かずたか 池田 和貴 (大学院客員研究員) *	kz-ikeda@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp

部 門	研究室	教員氏名	連絡先 (E-Mail)
システム生物学	生命情報科学	きでら あきのり 木寺 詔紀 (教授)	kidera@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		いけぐち みつのり 池口 満徳 (教授)	ike@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		ふちがみ そうたろう 淵上 壮太郎 (助教)	sotaro@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
	生命分析科学	きくち じゅん 菊地 淳 (大学院客員教授) *	kikuchi@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		もりや しげはる 守屋 繁春 (大学院客員准教授) *	smoriya@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		だて やすひろ 伊達 康博 (大学院客員研究員) *	ydate@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
細胞医科学	分子細胞医科学	こくぼ てつろう 古久保 哲朗 (教授)	kokubo@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		すずき あつし 鈴木 厚 (准教授)	abell@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		たかい なおき 高井 直樹 (助教)	n_takai@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
	免疫生物学	おおの ひろし 大野 博司 (大学院客員教授) *	ohno@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		もろ かずよ 茂呂 和世 (大学院客員教授) *	moro@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		かなや たかし 金谷 高史 (大学院客員研究員) *	t-kanaya@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
オミックス	プロテオーム科学	かわさき なな 川崎 ナナ (教授)	nana@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		おがわ たけひこ 小川 毅彦 (教授)	ogawa@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		かわさき ひろし 川崎 博史 (准教授)	kawasaki@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		あらかわ のりあき 荒川 憲昭 (助教)	arakawa@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
	機能ゲノム科学	ピエロ カルニンチ Piero Carninci (大学院客員教授) *	carninci@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		かわじ ひでや 川路 英哉 (大学院客員准教授) *	kawaji@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
すずき たかひろ 鈴木 貴紘 (大学院客員研究員) *		t-suzuki@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp	

部 門	研究室	教員氏名	連絡先 (E-Mail)
生体 医科学	生体 機能 医科学	たけい こうたろう 竹居 光太郎 (教授)	kohtaro@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		かたおか こうすけ 片岡 浩介 (准教授)	kkataoka@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		はやし いくこ 林 郁子 (准教授)	ihay@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
	バイオ イメー ジング	みやわき あつし 宮脇 敦史 (大学院客員教授) *	matsushi@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp
		おかだ たかはる 岡田 峰陽 (大学院客員教授) *	tokada@tsurumi.yokohama-cu.ac.jp

*理化学研究所 **産業技術総合研究所